

日露戦争と福嶋(根上村の誕生)

日露戦争に於ける勝利は、その後の軍国主義を助長するのに与つて力があつたと思う。

我々の先祖が初めて経験する近代戦争に、多くの戦死者を出したが、政府は更なる帝国主義を進め、地方では様々な改革が行われた。

在郷軍人会や愛国婦人会の結成や、『田んぼの神様』の合祀に見られるように、合理主義が、政策となり、次いで村の行政を効率化すめに村の合併が進められた。

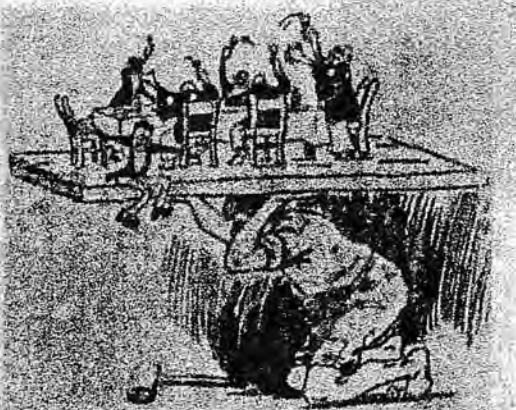
即ち、明治四十年、福江・江ノ島・釜屋の三村が合併して根上村が誕生したのは、その政策の一端であつた。

しかしこの合併は村の、実情を無視したものであつたらしく、旧福江村が根上村からの分離を訴え、内務大臣に陳情書を出すなどの運動が展開された。

この運動は立ち消えになつたものの、江ノ島村長から初代根上村長になつた、中山庄右衛門は辞任に追い込まれた。

その後、福江村から二名の村長が出たが、政治状態の中で長持ちせず、浜小学校の建設などで政治的に紛糾を重ね、米沢與三松が村長になり、次いで「寺井駅」問題で、更なる問題を抱える事になる。

当時は、農業中心の福江村に対して江ノ島村は、漸く機業に、産業の重点が移りつつある時期で、経済的にも考えが異なりつつあつたと考えられ、日露戦争の後遺症が、政治思想と経済思想との相違になつた。



織の下の労働者 『平民新聞』明治37年1月28日に掲載された風刺画。明治新聞社蔵